

授業科目名： 情報倫理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名： 栗木一博・清野正哉 担当形態：オムニバス
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・情報社会・情報倫理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>情報倫理に関する知識を身につけ、情報の生産、流通、消費という各段階における現行の規制を情報法として概括的に理解し、適切に物事を判断できる能力を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>情報社会の特質・問題点から説き起こし、法的・倫理的規範をみていく。法規制から倫理的側面まで加速する情報技術の発展を受け、現代を生きる人・技術者のために判断と行動の規範を明らかにする。情報を学ぶ上で、基盤となる内容であり、実社会に即した事例をもとに説明していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：情報社会の構造—光と影（1）：情報の生成、収集、流通（担当：栗木一博） 第2回：情報社会の構造—光と影（2）：情報の保有、管理、廃棄（担当：栗木一博） 第3回：情報社会とプライバシー侵害の問題（担当：栗木一博） 第4回：高度情報社会の発展と個人情報の保護（担当：栗木一博） 第5回：現代的プライバシー権の提唱—自己情報コントロール権（担当：栗木一博） 第6回：学校運営における情報倫理（担当：栗木一博） 第7回：学校生活における情報倫理（担当：栗木一博） 第8回：情報社会と憲法（担当：清野正哉） 第9回：情報社会における個人の権利（担当：清野正哉） 第10回：情報社会における個人参加と行動規制（担当：清野正哉） 第11回：インターネット利用の問題点と解決方法（担当：清野正哉） 第12回：情報セキュリティ（担当：清野正哉） 第13回：情報関係の法（1）著作権（担当：清野正哉） 第14回：情報関係の法（2）産業財産権（担当：清野正哉） 第15回：情報関係の法（3）個人情報保護法、電子商取引における規制、名誉毀損（担当：清野正哉）</p> <p>定期試験は実施する。</p>			
<p>テキスト</p> <p>梅本吉彦（2020）『情報社会と情報倫理 改訂版』丸善出版</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>清野正哉（2016）『情報社会における法・ルールと倫理』中央経済社</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業内課題またはレポート（30%）、定期試験（70%）</p>			

授業科目名： 情報社会論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名：齋藤長行 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・情報社会・情報倫理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>情報社会に関して、おける様々な事象を多様な視点から読み解くという学習活動を介して知見を学び、今後の情報社会で主体的に行動するための多様で柔軟な思考力と分析力を身につける。具体的な到達目標は以下となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報技術及びインターネット・メディアの進展がもたらした社会の変化、産業構造の変化、人々の生活様式の変化について概説することができる。 ・情報社会で生きる市民に必要なメディアリテラシーを習得し、倫理観を持って積極的かつ創造的に情報社会に参加する態度を持つ。 			
<p>授業の概要</p> <p>情報社会において、私たちを取り巻く情報メディアに関して、出来るだけ身近な事例に即しながら、様々なインターネットを中心とした事例を見ていき、情報社会について様々な視点から考えていく。最後には講義を通して、今後の情報社会がどうなっていくのかディスカッションを通して主体的に整理していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：インターネットとコミュニケーション</p> <p>第2回：インターネットの利用環境</p> <p>第3回：インターネットとセキュリティ、個人情報保護、データガバナンス</p> <p>第4回：メディアリテラシー（1）：インターネット以前、以降でのメディアの役割</p> <p>第5回：メディアリテラシー（2）：青少年のデジタルインターネットリテラシーの状況と政策</p> <p>第6回：メディアリテラシー（3）：初等、中等教育におけるメディアリテラシー</p> <p>第7回：ソーシャルメディアの光の側面—SNSやChat Botを介した防災・減災情報の提供、被災者支援の事例ソーシャルメディアの利用</p> <p>第8回：ソーシャルメディアの影の側面（フェイクニュース、ヘイトスピーチ、アルゴリズムバイアス）デジタルコンテンツの利用</p> <p>第9回：インターネットと生活（1）：メディア・プラットフォーム・クールジャパンに関する新規ビジネスがもたらした社会環境の変化と影響</p> <p>第10回：インターネットと生活（2）：DXによる公共・サービスや医療サービスの進化 からショッピング、ゲーム等の利用形態</p> <p>第11回：デジタルディバイドとユニバーサルデザイン：だれひとり取り残さないデジタル社会に向けて</p> <p>第12回：オンラインメディアと若者文化：つながり、承認欲求、推し活とメディア</p> <p>第13回：メタバースがもたらす社会変化の波：アバター、バーチャル観光、子どもたちのバーチャル居場所について</p> <p>第14回：AIがもたらす社会変化およびデータ駆動型経済の進展、それらがもたらす倫理的課題と社会との関わり</p> <p>第15回：今後の情報社会について（グループディスカッション）定期試験は実施しない。</p>			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

天野徹 (2022) 『21世紀型スキルとしての情報社会学—VUCAワールドを生きる人たちのために』 春風社

齋藤長行(2023)『子どものデジタル・ウェルビーイング—最善の利益をめざす国際機関による取り組み』 明石書店

経済協力開発機構 (OECD) 著、齋藤 長行・新垣 円 翻訳(2022)『デジタル環境の子どもたち—インターネットのウェルビーイングに向けて』 明石書店

齋藤 長行 著(2017)『エビデンスに基づくインターネット青少年保護政策—情報化社会におけるリテラシー育成と環境整備』 明石書店

経済協力開発機構(OECD)著、齋藤 長行 翻訳 (2021)『OECD人工知能(AI)白書 —先端テクノロジーによる経済・社会的影響』 明石書店

白鳥令、齋藤長行、上沼紫野、曾我部真裕、市川穰、西澤利治、鎌田真樹子、空閑正浩、長沼将一、久保谷政義(2016)『デジタルコンテンツアセッサ入門 DCA資格 2級・3級テキスト』 近代科学社

山口 真一 著(2020)『ソーシャルメディア解体全書』 勁草書房

松本 健太郎、埴 幸枝 著(2019)『メディア・コミュニケーション学講義』 ナカニシヤ出版

Livingstone, S. & Blum-Ross, A. (2020). Parenting for a Digital Future: How Hopes and Fears about Technology Shape Children's Lives, Oxford University Press, UK.

学生に対する評価

授業内課題 (50%) , 最終レポート (50%)

授業科目名： メディアとジャーナリズム	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：2単位	担当教員名：日下三男 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・情報社会・情報倫理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>マスメディアとジャーナリズムの基本概念と理論について説明できる。また、マスメディアとジャーナリズムといった社会的営為に対して興味と関心を持つようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>メディアとジャーナリズムの理論概念を、歴史を踏まえて解説する。新聞、放送、インターネットの特徴とは何か、どんなことを目的としているのか、ジャーナリズムと社会の関係性を考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：メディア、ジャーナリズムの基礎的概念 第2回：ナショナリズムとジャーナリズムの関係性 第3回：権力監視とジャーナリズムの責任 第4回：ジャーナリズムと人権思想 第5回：世論を問う 第6回：記者クラブ制度は善か悪か 第7回：メディア不信とは何か 第8回：インターネットメディアの誕生の歴史的経緯と社会的意味 第9回：ネットメディアの公共的役割、SNSの可能性 第10回：雑誌ジャーナリズムの現状 第11回：メディアリテラシーを考える 第12回：ジャーナリズムにおけるグローバルとローカル 第13回：客観報道と署名記事 第14回：新聞の比較検討（グループディスカッション） 第15回：民主主義の未来とジャーナリズム</p> <p>定期試験は実施する。</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>小林真大（2021）『生き抜くためのメディア読解』笠間書院 文化研究所編（2018）『ニュースは生き残るか』一藝社 池上彰ほか（2015）『ジャーナリズムは甦るか』慶応義塾大学出版会 原寿雄（2009）『ジャーナリズムの可能性』岩波書店 原寿雄（2009）『ジャーナリズムの思想』岩波書店</p>			

学生に対する評価

授業内レポート（20%），定期試験（80%）

授業科目名： コンピュータ概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名：橋本智明 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 コンピュータを構成するハードウェアの仕組みを理解し、そのハードウェアを動かすソフトウェアの仕組みも理解する。コンピュータ内での計算や回路についても理解する。			
授業の概要 コンピュータがどのような仕組みで動いているのかをハードウェアの面とソフトウェアの面の両方から説明していく。また、コンピュータ内部で扱う数値の表現方法や演算、回路についても説明していく。			
授業計画 第1回：コンピュータの仕組み：五大装置、コンピュータの種類、歴史 第2回：デジタルデータの表現（1）：数の表現、基数変換、負数の表現 第3回：デジタルデータの表現（2）：加減算、浮動小数点、データ表現のメリットとデメリット 第4回：論理回路（1）：集合、基本論理回路 第5回：論理回路（2）：組合せ回路、順序回路 第6回：プロセッサ（1）：基本機能、構成回路、動作の流れ 第7回：プロセッサ（2）：GPUの役割、効果 第8回：記憶装置（1）：原理、主記憶装置 第9回：記憶装置（2）：補助記憶装置 第10回：インタフェース 第11回：コンピュータの性能と信頼性 第12回：ソフトウェアとは（種類、応用ソフトウェア） 第13回：オペレーティングシステム（1）：OSとは、プロセス、入出力、ジョブ管理 第14回：オペレーティングシステム（2）：タスク管理、記憶管理 第15回：ファイルとデータベース 定期試験は実施する。			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 寺嶋廣克、朴鍾杰、安岡広志、平野正則（2016）『はじめて学ぶコンピュータ概論』コロナ社			
学生に対する評価 授業課題（50%）、定期試験（50%）			

授業科目名： プログラミング演習（含実習）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名：橋本智明 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
Pythonで文字列を表示したり，基本的な数値演算ができるプログラムが書ける．また，リスト，タプル，条件分岐について理解し，自分でこれらを活用したプログラムが書ける．			
授業の概要			
Pythonは，AI，データサイエンス，数式処理など幅広い分野で使われています．本演習では，Pythonを用いて，標準的な出力から複雑な分岐の演算まで幅広く学んでいきます．実際にプログラムを打ち込んで出力結果を確認する実習を取り入れることで，より理解が深まります．			
授業計画			
第1回：Pythonがどのような言語か			
第2回：標準的な出力について：print, コメント#			
第3回：数値演算について（1）：データ型と数値型，演算子，四則計算			
第4回：数値演算について（2）：剰余，べき乗，演算の優先順位 ※演習課題1			
第5回：変数について			
第6回：文字列の演算，文字列と数値の変換について ※演習課題2			
第7回：リストについて（1）：リストの生成，要素の型，インデックス			
第8回：リストについて（2）：長さ，結合，反復，要素の追加，要素の削除			
第9回：リストについて（3）：インデックスの要素の削除，要素のソート ※演習課題3			
第10回：タプルについて（1）：タプルの生成，要素の型，アンパック，インデックス要素			
第11回：タプルについて（2）：タプルの長さ，結合，反復 ※演習課題4			
第12回：条件分岐について（1）：ifのルール，単純なif文			
第13回：条件分岐について（2）：else節，elif節			
第14回：条件分岐について（3）：pass文，エラー ※演習課題5			
第15回：ブール型の演算について			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
富士通ラーニングメディア（2022）『よくわかるPython入門』富士通ラーニングメディア			
学生に対する評価			
授業内小テスト（25%），单元ごとの演習課題（75%）			

授業科目名： データ構造とアルゴリズム	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名：橋本智明 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 様々なアルゴリズムの知識を身につけ、効率的なプログラムを作成できるようになる。良いアルゴリズムを理解し、状況に応じて最適なアルゴリズムを選択できるようになる。			
授業の概要 効率的なアルゴリズムを用いることで、無駄な計算を行わずに済みます。そこで、アルゴリズムやデータ構造の考え方を身につけると、効率的なプログラムを作成できるようになります。本授業では、様々なアルゴリズムの原理について学び、更にアルゴリズムをプログラムする実習を行うことでより実践力を身につけます。			
授業計画 第1回：アルゴリズムとは 第2回：基本的なアルゴリズム（1）：総和、2値のソート、条件判定 第3回：基本的なアルゴリズム（2）：繰返しのスキップ、複数のrange、構造化プログラミング 第4回：データ構造と配列について：配列の概念、リストとタプル 第5回：配列について：要素の最大値、モジュールのテスト、配列の要素の並びの反転、基数変換 第6回：探索について：線形探索、2分探索、ハッシュ法 第7回：スタックとキューについて 第8回：再帰的アルゴリズムについて（1）：再帰とは、再帰アルゴリズムの解析 第9回：再帰的アルゴリズムについて（2）：ハノイの塔、8王妃問題 第10回：ソートについて（1）：バブルソート、単純選択ソート、単純挿入ソート、シェルソート 第11回：ソートについて（2）：クイックソート、マージソート、ヒープソート、度数ソート 第12回：文字列探索について：単純法、KMP法、Boyer-Moore法 第13回：線形リストについて：線形リスト、循環・重連結リスト 第14回：木構造について 第15回：2分探索木について 定期試験は実施する			
テキスト 柴田望洋（2020）『新・明解Pythonで学ぶアルゴリズムとデータ構造（新・明解シリーズ）』SBクリエイティブ			
参考書・参考資料等 各授業でGoogle Classroomにて適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 授業での実習課題（40％）、定期試験（60％）			

授業科目名： 情報システム論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名： 山口恭正・遠藤教昭・内野秀哲 担当形態：オムニバス
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・情報システム（実習を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>情報システムの開発の方法や情報システムの有用性、実際の情報システムの運用について理解し、説明できる。また、データベースの基本的な仕組みや正規化理論について理解し、説明できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>前半では、生活の中の情報システム、人々に有用な情報システムの要件や構築法などを説明する。後半では、データベースに関する基本的な概念や仕組みについて、具体的な事例を紹介しながら説明する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：情報システムとは（担当：山口恭正）</p> <p>第2回：情報システムとコンピュータ（担当：山口恭正）</p> <p>第3回：文化活動としての情報システム（担当：山口恭正）</p> <p>第4回：生活基盤としての情報システム（担当：内野秀哲）</p> <p>第5回：学校教育と情報システム（担当：内野秀哲）</p> <p>第6回：ビジネスと情報システム（1）：顧客情報（担当：内野秀哲）</p> <p>第7回：ビジネスと情報システム（2）：電子商取引（担当：内野秀哲）</p> <p>第8回：情報システムと開発・運用（担当：内野秀哲）</p> <p>第9回：情報の共有と検索の仕組み（担当：遠藤教昭）</p> <p>第10回：データベースとは何か（担当：遠藤教昭）</p> <p>第11回：リレーショナルデータベース（構造型記述、意味記述、操作記述）（担当：遠藤教昭）</p> <p>第12回：SQLとは（担当：遠藤教昭）</p> <p>第13回：リレーショナルデータベースの設計（担当：遠藤教昭）</p> <p>第14回：正規化理論（1）：更新時異状と情報無損失分解（担当：遠藤教昭）</p> <p>第15回：正規化理論（2）：高次の正規化（担当：遠藤教昭）</p> <p>定期試験は実施する</p>			
<p>テキスト</p> <p>神沼 靖子 編著（2006）『IT Text（一般教育シリーズ） 情報システム基礎』オーム社</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>増永良文（2021）『データベース入門 第2版』サイエンス社</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業内課題（40%）、定期試験（60%）</p>			

授業科目名： 情報システム演習（含実習）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名：内野秀哲・遠藤教昭 担当形態：オムニバス
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・情報システム（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 スプレッドシートを活用した単純な情報システムやデータベースの利用、構築、運用等の情報システム開発に必要な知識と技術を身につけ、主体的かつ協働的に開発に取り組むことができる。			
授業の概要 情報システムの開発する流れを学びながら、実際にシステムの開発を行う。前半では、VBAによるシステム開発を行い、後半ではSQLでのデータベースの構築について実際に入力しながら説明していく。			
授業計画 第1回：スプレッドシート（1）：ボタンを押してプログラムを実行させる（担当：内野秀哲） 第2回：スプレッドシート（2）：RangeとCells（担当：内野秀哲） 第3回：スプレッドシート（3）：繰り返し処理と条件分岐（担当：内野秀哲） 第4回：スプレッドシート（4）：関数、セルの書式（担当：内野秀哲） 第5回：スプレッドシート（5）：自動印刷システムの作成（担当：内野秀哲） 第6回：スプレッドシート（6）：データ集計システムの作成（担当：内野秀哲） 第7回：データベース（1）MySQLへの接続と切断、データベースの準備（担当：遠藤教昭） 第8回：データベース（2）：SELECT句、FROM句、NULLの捉え方（担当：遠藤教昭） 第9回：データベース（3）：ORDER BY句、LIMIT句（担当：遠藤教昭） 第10回：データベース（4）：WHERE句、比較演算、IS NULL、BETWEEN（担当：遠藤教昭） 第11回：データベース（5）：論理演算子、IN演算子、LIKE演算子（担当：遠藤教昭） 第12回：データベース（6）：内部結合と外部結合（担当：遠藤教昭） 第13回：データベース（7）：GROUP BY句（担当：遠藤教昭） 第14回：データベース（8）：INSERT、UPDATE、DELETE（担当：遠藤教昭） 第15回：データベース（9）：CREATE DATABASE、CREATE TABLE（担当：遠藤教昭） 定期試験は実施しない。			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 古川順平（2018）『Excel VBAの教科書』SBクリエイティブ 増永良文（2021）『データベース入門 第2版』サイエンス社			
学生に対する評価 授業内での課題（40%）、単元ごとの演習課題（60%）			

授業科目名： 情報通信ネットワーク論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名：遠藤教昭 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・情報通信ネットワーク（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 インターネットの仕組みやプロトコルと代表的な要素技術について理解し、説明することができる。暗号化などのセキュリティ技術の仕組みを理解し、説明することができる。			
授業の概要 インターネットの基本原理と階層構造とを説明し、多数のコンピュータを相互接続して双方向通信を実現する仕組みを説明する。また、実装されているセキュリティ技術の仕組みについても説明する。			
授業計画 第1回：ネットワークについて：歴史、プロトコル体系、特徴 第2回：アプリケーション層について：WWW、電子メール、DNS 第3回：トランスポート層について：役割、TCP 第4回：ネットワーク層について（1）：インターネット構造、IP 第5回：ネットワーク層について（2）：ICMP、ルーティング 第6回：データリンク層について（1）：機能、LAN上の通信 第7回：データリンク層について（2）：プロトコル、イーサネット、VLAN 第8回：物理層について：通信路の種類、伝送方式 第9回：無線ネットワークについて（1）：信号の変調、多元接続 第10回：無線ネットワークについて（2）：複信方式、伝送品質改善技術 第11回：無線ネットワークについて（3）：電波伝搬、移動通信システム、無線LAN 第12回：ストリーミングとQoSについて 第13回：ネットワークセキュリティ（1）：共通鍵暗号、公開鍵暗号 第14回：ネットワークセキュリティ（2）：マルウェア、ファイアウォール 第15回：ネットワークセキュリティ（3）：バイオメトリクス 定期試験は実施する。			
テキスト 阪田史郎 他（2015）『IT Text 情報通信ネットワーク』オーム社			
参考書・参考資料等 宮地充子、菊地浩明（2022）『IT Text 情報セキュリティ 改訂2版』オーム社			
学生に対する評価 授業内課題（50%）、定期試験（50%）			

授業科目名： 情報通信ネットワーク演習（含実習）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名：遠藤教昭
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・情報通信ネットワーク（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
HTMLとCSSの基本を理解し、記述できる。また、自らコードを作成して、Webページを制作することができる。			
授業の概要			
Webサイトはブラウザを通して閲覧している。その元となるHTMLやCSSに関する知識を深め、実際にコードを記述することで、タグの効果などを確認し、使いこなせるようにしていく。多くの技術を習得し、最終的に自分でWebページを制作できるようにしていきます。			
授業計画			
第1回：Webサイトの仕組み、HTMLの概要			
第2回：HTMLの演習（1）：見出し、文章表示			
第3回：HTMLの演習（2）：リンク、画像の挿入			
第4回：CSSについて			
第5回：CSSの演習（1）：プロパティ、セレクタの使い方			
第6回：CSSの演習（2）：背景などの装飾			
第7回：CSSの演習（3）：CSSを使った要素の装飾			
第8回：CSSの演習（4）：初歩的な文書のレイアウトとボックスモデル			
第9回：表組みとフォームの作成			
第10回：CSSレイアウト（floatレイアウト、positionレイアウト、flexboxレイアウト）			
第11回：HTML5に関する基礎知識			
第12回：CSS3による装飾			
第13回：モバイル対応Webサイト制作の知識			
第14回：課題制作（1）：Webページの制作			
第15回：課題制作（2）：Webページの制作			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
草野あけみ（2019）『HTML5&CSS3標準デザイン講座 30LESSONS【第2版】』翔泳社			
参考書・参考資料等			
各授業でGoogle Classroomにて適宜資料を配布する。			
学生に対する評価			
授業内課題（40％）、最終課題（60％）			

授業科目名： メディア学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名：橋本智明 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 メディアに関する基本的な知識を理解する。マルチメディア技術とその活用について理解する。情報デザインの基本的な概念について理解する。			
授業の概要 メディアの概念、メディアの歴史と発展、そして、メディアとコミュニケーションの関係を学んでいく。そして、メディアがどのようにデジタル化されていくのかその技術を追っていく。また、別の視点としてメディアを表現する際にデザインの観点から、情報をどのように扱っていくのが良いのかも学んでいく。			
授業計画 第1回：メディアの基礎 第2回：メディア発展の歴史 第3回：メディアの構造とコミュニケーションの形態 第4回：デジタルメディア技術 第5回：音メディアのデジタル化 第6回：視覚メディアのデジタル化 第7回：コンピュータグラフィックス 第8回：情報デザイン（1）：デザインの歴史について／情報デザインとは何か 第9回：情報デザイン（2）：デザインの造形要素 第10回：情報デザイン（3）：デザインの検討と活用 第11回：コミュニケーションのデジタル化 第12回：インターネット応用サービス技術 第13回：メディアとサービス 第14回：インターネットとビジネスモデル 第15回：今後のデジタルメディアについて 定期試験は実施する。			
テキスト 山口治男（2011）『IT Text メディア学概論』オーム社			
参考書・参考資料等 各授業でGoogle Classroomにて適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 授業課題（40%）、定期試験（60%）			

授業科目名： 映像基礎演習（含実習）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名：藤本晋也
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
映像が果たす役割やその特徴を説明することができる。映像提供対象の視点に立ち、その対象に対してどのような効果が出れば成功かを考えられる。映像を用いた情報を効果的に伝えることができる。映像撮影の観点や編集に必要な基礎的スキルを身につける。			
授業の概要			
デジタル映像編集機器等のIT関連機器の普及は、様々な場面で欠かせない。この状況下で本演習では、「映像の基礎と撮影の観点や方法」について映像編集などの実習を交えながら授業を展開する。			
授業計画			
第1回：スポーツにおける映像の果たす役割			
第2回：映像の基礎（1）：映像の種類と特性について			
第3回：映像の基礎（2）：映像素材収集（撮影）の観点と方法について			
第4回：映像の基礎（3）：映像撮影機器種類と特性について			
第5回：映像の基礎（4）：映像分析・編集機器の種類と特性について			
第6回：映像の基礎（5）：映像素材の管理と利活用について			
第7回：映像活用の実例（1）：コーチングにおける映像の果たす役割と実例			
第8回：映像活用の実例（2）：ミーティング場面における映像の果たす役割と実例			
第9回：映像活用の実例（3）：情報戦略活動における映像の果たす役割と実例			
第10回：映像活用の実例（4）：JOC、JISS会議における映像の果たす役割と実例			
第11回：映像活用の実例（5）：組織的情報後方支援活動における映像の果たす役割と実例			
第12回：グループ演習（1）：グループ毎にテーマと対象を決定し、関連映像の収集と分析			
第13回：グループ演習（2）：収集・分析した映像を編集			
第14回：グループ演習（3）：編集した映像について指定する観点に基づき文書化する			
第15回：プレゼンテーション：成果発表及び講評			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
参考書・参考資料等			
大藤幹（2021）『自由自在に動画が作れる高機能ソフト DaVinci Resolve入門』マイナビ出版			
学生に対する評価			
レポート（50%）、最終ドキュメンテーション（30%）、プレゼンテーション（20%）			

授業科目名： CG基礎演習（含実習）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名：橋本智明
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
画像編集ソフトを用いて、図形・画像による表現技法を身に付け、的確に画像の加工及び編集が行える。また、3DCGソフトを用いて、基本的な立体を作成することができる。			
授業の概要			
2DCGとして、GIMPを用いて、様々な画像の加工を用語とともに理解し、自分で加工・編集できるように実践していきます。3DCGでは、Blenderを用いて、基本的なモデリングを行い、基本となる立体を作成できるように、実践していきます。メディアの加工に関する実習を取り入れた授業になります。			
授業計画			
第1回：GIMPとBlenderについて			
第2回：GIMP（1）：写真を装飾する			
第3回：GIMP（2）：複数の写真を合成する			
第4回：GIMP（3）：アニメ背景風加工する			
第5回：GIMP（4）：ロゴマークとは何か、作成方法			
第6回：課題制作（1）：ロゴマークの作成			
第7回：GIMP（5）：写真のトレース			
第8回：GIMP（6）：解像度、描画ツール、範囲選択			
第9回：GIMP（7）：色調補正、レイヤー			
第10回：GIMP（8）：文字の入力・編集			
第11回：課題制作（2）：写真の切り抜き、色調補正、余分なものの除去			
第12回：Blender（1）：基本的なモデリング			
第13回：Blender（2）：カーブの作成			
第14回：Blender（3）：様々な編集操作			
第15回：課題制作（3）：指定されたオブジェクトを作成			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
ドルバッキーヨウコ（2020）『できるクリエイター GIMP 2.10独習ナビ 改訂版』インプレス			
参考書・参考資料等			
友（2022）『今日からはじめる Blender 3入門講座』SBクリエイティブ			
学生に対する評価			
授業中の小課題（40%）、課題制作（60%）			

授業科目名： コンテンツ制作演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：2単位	担当教員名： 佐藤修
			担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>コンテンツの制作と発信について体系的に理解するとともに、関連する技術を身に付け、実際にPCを活用してコンテンツ制作を行うことができる。コンテンツの制作と発信に主体的かつ協働的に取り組むことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>数人のグループ間でニュース、インタビュー、ドキュメンタリーを作成し、最後に一つのニュース番組を制作します。グループ内ではディレクターや記者等の役割分担することで協働学習を行います。また、情報を発信する上でのメディアリテラシーについても学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ニュースの構成、映像メディアの特性</p> <p>第2回：ニュース動画の制作（1）：企画方法、アポの取り方、ニュース原稿の作り方、動画の撮影方法</p> <p>第3回：ニュース動画の制作（2）：ニュース動画の編集ポイント、原稿の読み方、グループ会議</p> <p>第4回：ニュース動画の制作（3）：編集作業</p> <p>第5回：ニュース動画の制作（4）：上映会・ディスカッション</p> <p>第6回：インタビュー動画の制作（1）：インタビューの方法、インタビュー動画の取り方</p> <p>第7回：インタビュー動画の制作（2）：インタビュー動画の編集のポイント、グループ会議</p> <p>第8回：インタビュー動画の制作（3）：編集作業</p> <p>第9回：インタビュー動画の制作（4）：上映会・ディスカッション</p> <p>第10回：ドキュメンタリー動画の制作（1）：ドキュメンタリーの作り方（企画・取材・編集）</p> <p>第11回：ドキュメンタリー動画の制作（2）：取材進捗状況の報告と議論</p> <p>第12回：ドキュメンタリー動画の制作（3）：編集作業</p> <p>第13回：ドキュメンタリー動画の制作（4）：上映会・ディスカッション</p> <p>第14回：スタジオ撮影・編集</p> <p>第15回：ニュース番組上映会・ディスカッション、作品をアップロードする上でのインターネットリテラシー</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>NHK放送技術局（2011）『テレビ番組の制作技術 増補版』兼六館出版</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業内レポート（40%）、授業外レポート（20%）、映像作品（40%）</p>			

授業科目名： メディア応用実習 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単位	担当教員名：日下三男 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
活字メディアやスポーツ現場の特徴や現状を客観的に理解し、説明できる。直接メディアやスポーツ選手に接することで、これまでと違う立場から見るができるようになる。			
授業の概要			
取材を体験する。様々な事象から自ら課題を設定し、問題解決のために調べるとともに人や組織団体に聞く。記事を執筆し形にしていく。作成レポートを発表し、他者の意見をきくことで改善していく。			
授業計画			
第1回：実習の抱負をまとめ発表			
第2回：問いを立てる／問いについての資料収集①：社会の中で何が問題かを考え、解決のための資料収集			
第3回：問いを立てる／問いについての資料収集②：前週に引き続き、資料を収集。取材先も考える。			
第4回：実習（1）：計画をもとに調査と取材			
第5回：実習（2）：計画をもとに調査と取材			
第6回：実習（3）：計画をもとに調査と取材			
第7回：実習（4）：計画をもとに調査と取材			
第8回：実習（5）：計画をもとに調査と取材、中間発表に向けた資料作成			
第9回：中間発表：報告書に盛り込む要素を意識しながら、これまでの成果を報告			
第10回：実習（6）：中間発表を踏まえた修正及び調査と取材の継続			
第11回：実習（7）：計画をもとに調査と取材			
第12回：実習（8）：計画をもとに調査と取材			
第13回：実習（9）：計画をもとに調査と取材			
第14回：最終報告（1）：レポート発表			
第15回：最終報告（2）：レポート発表			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
熊取義純（2010）『新聞製作入門』印刷学会出版部			
学生に対する評価			
授業外レポート（80%）、授業内レポート（20%）。提出レポートはコメントを付して返却する。			

授業科目名： メディア応用実習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：2単位	担当教員名： 佐藤修・齋藤長行 担当形態：オムニバス
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>多様なマルチメディア技術を用いて「静止画」，「動画」，「音声」などの表現方法を複合的に設計して表現することができる。デジタルコンテンツやインターネットなどの知識や技術を身につけ活用できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>東北放送，仙台放送などのスポーツ番組を対象として，スタッフの目線での実習を行う。事前に座学で番組作りの説明，実際の作業内容の概要説明の講義を行う。実際のイベントにスタッフとして参加してテレビ中継などを体験する。また，ラジオ番組についても講義を行い，実習としてラジオCMの制作及び発表を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：テレビ番組の編成について（担当：佐藤修）</p> <p>第2回：テレビ番組の企画について（担当：佐藤修）</p> <p>第3回：テレビ中継の概要について（担当：佐藤修）</p> <p>第4回：マラソン中継実習の事前準備（担当：佐藤修）</p> <p>第5回：実習①（マラソン中継の見学と中継補助）（担当：佐藤修）</p> <p>第6回：実習②（マラソン中継の見学と中継補助）（担当：佐藤修）</p> <p>第7回：実習③（マラソン中継の見学と中継補助）（担当：佐藤修）</p> <p>第8回：実習④（マラソン中継の見学と中継補助）（担当：佐藤修）</p> <p>第9回：マラソン中継現地実習のレポートの作成（担当：佐藤修）</p> <p>第10回：マラソン中継現地実習のレポート発表（担当：佐藤修）</p> <p>第11回：テレビとメディアリテラシー（担当：齋藤長行）</p> <p>第12回：ラジオとメディアリテラシー（担当：齋藤長行）</p> <p>第13回：SNSを活用した情報発信について（担当：齋藤長行）</p> <p>第14回：インターネットでの配信と権利について（担当：齋藤長行）</p> <p>第15回：コンテンツの適切な利用環境について（担当：齋藤長行）</p> <p>第16回：ラジオCMの制作について（担当：佐藤修）</p> <p>第17回：ラジオCM制作（担当：佐藤修）</p> <p>第18回：制作したラジオCMの発表会（担当：佐藤修）</p> <p>第19回：ラジオCM制作のレポート作成（担当：佐藤修）</p> <p>第20回：野球中継ディレクターの仕事について（担当：佐藤修）</p> <p>第21回：試合記録・スコアブックの番組制作利用（担当：佐藤修）</p> <p>第22回：プロ野球中継実習の事前準備（担当：佐藤修）</p> <p>第23回：現地実習⑥（プロ野球中継の見学と中継補助）（担当：佐藤修）</p>			

第24回：現地実習⑦（プロ野球中継の見学と中継補助）（担当：佐藤修）
第25回：現地実習⑧（プロ野球中継の見学と中継補助）（担当：佐藤修）
第26回：現地実習⑨（プロ野球中継の見学と中継補助）（担当：佐藤修）
第27回：プロ野球中継実習のレポートの作成（担当：佐藤修）
第28回：プロ野球中継実習のレポート発表（担当：佐藤修）
第29回：中継権利獲得と局イメージ（担当：佐藤修）
第30回：データの生かし方と番組進行表の見方（担当：佐藤修）
定期試験は実施しない。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

梅田明宏（2008）『スポーツ中継』現代書館

学生に対する評価

授業内レポート30％，授業外レポート40％，演習課題30％

授業科目名： 情報と職業	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名：佐藤修，日下三男，齋藤長行， 石丸出穂，清野正哉
			担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・情報と職業		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>情報と職業についての関わり，情報に関する職業人としてのあり方等を理解する．そして，情報社会の構成員としての自覚と責任を持つように，意識を高く持つようにする．</p>			
<p>授業の概要</p> <p>企業が求める人材の能力は多種多様であり経営環境も常に変化している．情報関連産業の実態を概観し，求められる人材の育成と職業能力について理解を深めていく．また，具体的な情報を扱う職業を取り上げ，情報産業の多様性に触れる．</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：情報社会と情報システム（担当：齋藤長行）</p> <p>第2回：情報化におけるビジネス環境（担当：齋藤長行）</p> <p>第3回：企業における情報活用（担当：齋藤長行）</p> <p>第4回：インターネットビジネス（担当：齋藤長行）</p> <p>第5回：働く環境と労働観の変化（担当：齋藤長行）</p> <p>第6回：情報社会における犯罪と法制度（担当：清野正哉）</p> <p>第7回：情報社会におけるリスクマネジメント（担当：清野正哉）</p> <p>第8回：メディアと職業（1）：テレビでの情報発信（担当：佐藤修）</p> <p>第9回：メディアと職業（2）：ラジオでの情報発信（担当：佐藤修）</p> <p>第10回：メディアと職業（3）：放送と広告・イベント（担当：佐藤修）</p> <p>第11回：メディアと職業（4）：新聞での情報発信（担当：日下三男）</p> <p>第12回：メディアと職業（5）：新聞記者という仕事（担当：日下三男）</p> <p>第13回：スポーツ情報と職業（1）：スポーツアナリストという仕事（担当：石丸出穂）</p> <p>第14回：スポーツ情報と職業（2）：スポーツ情報の分析方向（担当：石丸出穂）</p> <p>第15回：スポーツ情報と職業（3）：今後のスポーツ情報（担当：石丸出穂）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>駒谷昇一，己丈夫『IT Text 情報と職業（改訂2版）』オーム社</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>各担当者より適宜紹介がある。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>レポートで評価する．第5回迄の担当者60%，第6回以降担当者各10%</p>			

授業科目名： 情報科教育論 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名：橋本智明 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学習指導要領における高等学校情報科で示されている指導する学習内容や目標を理解する。また、共通教科情報科の2科目の指導内容を深く理解する。オンライン授業のメリットとデメリットを理解し、ICTを活用した適切な授業が行えるようにする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領における情報科の目標・学習内容を概観する。次に、共通教科情報科の2科目を單元ごとに細かく指導方法を検討する。また、他教科との関わりや専門教科情報科についても説明していく。最後にオンライン授業のメリット・デメリットを説明し、大学共通テストでの「情報」の位置づけも説明する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：高等学校教科「情報」の歴史、実践研究の動向</p> <p>第2回：共通教科情報科の学習内容と目標</p> <p>第3回：「情報I」での指導法（1）：情報社会の問題解決</p> <p>第4回：「情報I」での指導法（2）：コミュニケーションと情報デザイン</p> <p>第5回：「情報I」での指導法（3）：コンピュータとプログラミング</p> <p>第6回：「情報I」での指導法（4）：情報通信ネットワーク</p> <p>第7回：「情報I」での指導法（5）：データの活用</p> <p>第8回：「情報II」での指導法（1）：情報社会の進展と情報技術</p> <p>第9回：「情報II」での指導法（2）：コミュニケーションとコンテンツ</p> <p>第10回：「情報II」での指導法（3）：情報とデータサイエンス</p> <p>第11回：「情報II」での指導法（4）：情報システムとプログラミング</p> <p>第12回：総合的な探究の時間や他教科との関わり</p> <p>第13回：専門教科情報科の学習内容と目標</p> <p>第14回：情報科での学習指導と評価</p> <p>第15回：オンライン授業のメリットとデメリット、大学共通テストの教科「情報」の検討 定期試験は実施する。</p>			
<p>テキスト</p> <p>高等学校学習指導要領（平成31年月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 情報編（平成31年月告示 文部科学省）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>鹿野利春，高橋参吉，西野和典 編修（2022）『情報科教育法 —これからの情報科教育—』実教出版</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業課題（30%），定期試験（40%），レポート（30%）</p>			

授業科目名： 情報科教育論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名：橋本智明 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学習指導要領に基づいた指導計画や評価を策定できるようにする。実践的なICTを活用した指導法を修得し、学校現場における情報機器の環境を想定して、授業設計及び授業実践の方法を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>実践力を身につけるため、指導案の書き方から評価の方法、ICT機器の実際の活用について説明する。その後、4パターン（オンラインor対面、講義or実習）の模擬授業及び合評会を行う。模擬授業を学生相互に行うことにより、情報科の教員に求められる資質能を深めます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：情報科における指導案と評価 第2回：情報科におけるICT機器の活用 第3回：オンライン授業（オンデマンド型、双方向型）の指導法 第4回：「情報Ⅰ」講義（対面）の模擬授業の準備 第5回：模擬授業及び合評会 グループ1 第6回：模擬授業及び合評会 グループ2 第7回：「情報Ⅰ」講義（双方向オンライン）の模擬授業の準備 第8回：模擬授業及び合評会 グループ1 第9回：模擬授業及び合評会 グループ2 第10回：「情報Ⅰ」実習（対面）の模擬授業の準備 第11回：模擬授業及び合評会 グループ1 第12回：模擬授業及び合評会 グループ2 第13回：「情報Ⅰ」実習（双方向オンライン）の模擬授業の準備 第14回：模擬授業及び合評会 グループ1 第15回：模擬授業及び合評会 グループ2 定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領（平成31年月告示 文部科学省）』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編（平成31年月告示 文部科学省）』</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>鹿野利春，高橋参吉，西野和典 編修（2022）『情報科教育法 —これからの情報科教育—』実教出版</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>模擬授業（50%），指導案（30%），レポート（20%）</p>			

授業科目名 道徳教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小石俊聡 担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	道徳の理論及び指導法。大学が独自に設定する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、(1)道徳の意義や原理等を踏まえて、学校における道徳教育の目標や内容の理解、(2)教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法、について理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、学習指導要領を基準として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容について概説する。さらに道徳科指導計画の立案や教材研究・学習指導案の作成、模擬授業の実施等を通してより実践的指導力が身につくことができるようにする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：道徳とは何か：規範意識・規範の根拠としての人間尊重の精神 第2回：戦後の教育改革と道徳教育：道徳教育の歴史 第3回：学習指導要領と道徳的価値：教育基本法と学習指導要領 第4回：道徳授業の現状とその改善方法：道徳科をめぐる現状と課題 第5回：道徳教育と家庭・地域社会の協力：学校と家庭、地域社会の連携 第6回：道徳授業の充実と教師の生き方：道徳科における教師の指導の在り方 第7回：価値意識の発達：道徳性の発達と相対主義 第8回：高校における道徳教育：道徳教育における全体計画の作成 第9回：道徳科の授業と評価：学習指導要領に示されている「評価」 第10回：道徳科の授業と体験活動：道徳科における体験活動の意義 第11回：個性の尊重：学校教育における「個性」の伸長 第12回：道徳科の授業①：学習指導案の作成 第13回：道徳科の授業②：教材の特徴を踏まえた指導過程づくり 第14回：道徳科の授業③：グループ学習（模擬授業） 第15回：国際化社会と愛国心教育：教育基本法、学習指導要領における「愛国心」教育 期末試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>中学校学習指導要領（最新版）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>期末試験（レポート含む）の結果（95%）に、受講態度（日常的な取り組み等）（5%）を加味して評価する。</p>			

授業科目名： 教職総合演習	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目 選択	単位数： 2単位	担当教員名：江尻雅彦、白幡真紀 担当形態：演習
科目	教職総合演習		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本演習では、学校教師として身につけることが必要な学習指導と生徒指導（集団行動）に関する基本的知識と技能について実践的に学ぶ。なお、後者においては、東日本大震災での教訓を踏まえ、児童生徒が身体の安全をおびやかされるような緊急事態に遭遇した場合でも、安全に行動できるようにするために必要な指導のあり方も教授する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>演習は15名程度の班ごとに実施する。学習指導に関しては授業の構想（5回）と授業の実践（5回）に分け、授業の構想では教材研究、授業デザイン、学習指導案作成などの要点と技法を概説し、学習指導案を作成する。授業の実践では、作成した学習指導案にもとづき模擬授業を実施する。生徒指導（集団行動）に関しては、班合同で実施する。集団行動の基本的な行動様式と指導上の留意点について概説し、学生が相互に指導を実践する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：全体オリエンテーションと班編成・担当者紹介 第2回：授業の構想（その1） 教材研究と学習指導案について（第2回～第11回 班ごとと実施） 第3回：授業の構想（その2） 授業デザインと学習指導案作成上の留意点・班内サブグループ編成 第4回：授業の構想（その3） 学習指導案の作成演習（全体指導） 第5回：授業の構想（その4） 学習指導案の作成演習（個別指導含む） 第6回：授業の構想（その5） 学習指導案の作成演習（指導案の相互発表） 第7回～第11回：模擬授業 模擬授業の実施（サブグループないし個別）と相互批評・講評 第12回～第14回：集団行動の行動様式・指示演習（班合同）・緊急事態時の指導演習 第15回：全体まとめ・補足</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領 中学校学習指導要領解説 保健体育編 高等学校学習指導要領解説 体育・保健体育編</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>東京書籍（2021）新しい保健体育（2東書 保体701） 大修館書店（2022）現代高等保健体育（50 大修館 保体701）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>受講者の課題への取り組み状況、積極性、課題の達成度について協議し、総合的に成績を評価する。課題の達成度等は各担当者の研究室において随時、理由を含めて個別に開示する。</p>			

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名：清野正哉 担当形態：単独
科 目	教科教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標 憲法・憲法学上の用語の意味と使用法を理解し、適切に使用できるようになる。基本的人権や統治機構に係わる問題事項を自ら考え、意見を組み立て議論・論証ができるようになる。			
授業の概要 憲法とは何か、憲法の歴史的展開や日本国憲法の歴史的経緯について取り上げるとともに、憲法の重要な事項である基本的人権の保障、統治機構（国会・内閣・裁判所）、地方自治、憲法改正等について説明し、それぞれに関係する現代的な論点について考える授業を行う。なお、AI（人工機能）等の先端科学技術と憲法の関わりについても取り上げたい。			
授業計画 第1回：ガイダンス・導入授業 第2回：憲法とは何か、憲法の歴史的展開 第3回：大日本帝国憲法・明治憲法の制定と現行日本国憲法の関係 第4回：日本国憲法の三大原理 第5回：日本国憲法を貫く価値観 第6回：国民主権 第7回：平和主義 第8回：基本的人権の保障 第9回：基本的人権の保障（憲法第13条と憲法第14条以下） 第10回：基本的人権各論1 第11回：基本的人権各論 第12回：基本的人権各論3 第13回：統治機構1（国会・内閣） 第14回：統治機構2（裁判所） 第15回：地方自治、インターネット・AIと憲法 定期試験は実施する。			
テキスト 配付するレジュメを使用する。教科書はなし。			
参考書・参考資料等 特になし。			
学生に対する評価 定期試験（100%）			

授業科目名： 体育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名：入澤裕樹，田口直樹 担当形態：オムニバス
科 目	教科教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育原理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>体育原理に関する知識を十分に理解した上で、他人に説明することができる。体育・スポーツについてのより良い指導を追求する意識を持つことができる。授業目標を意識して積極的に授業に参加し、体育原理に関して主体的に学ぶことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>体育系大学の学生が理解しておきたい現代の学校体育やスポーツにおける様々な問題について取り上げて講義を行う。主にスポーツ哲学的な方法を用いながら考察していく。体育に関する学問の入口となる科目のため様々な学問領域とどのように関連していくのかも解説する。必要に応じてオンライン配信による講義を行うこともある。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 体育原理とは（担当：入澤裕樹） 第2回：スポーツとは何か（担当：入澤裕樹） 第3回：体育とは何か（担当：入澤裕樹） 第4回：教科としての体育の成り立ち（担当：入澤裕樹） 第5回：身体教育という考え方（担当：入澤裕樹） 第6回：運動を指導するための考え方（担当：田口直樹） 第7回：体育と指導者（担当：田口直樹） 第8回：めざすべき運動部活動とは（担当：田口直樹） 第9回：スポーツ指導の問題性（担当：田口直樹） 第10回：子供から見た体育の存在意義（担当：田口直樹） 第11回：スポーツとオリंपイズム（担当：田口直樹） 第12回：競技者における理想の姿（担当：田口直樹） 第13回：スポーツのルールを考える（担当：田口直樹） 第14回：スポーツとドーピング（担当：田口直樹） 第15回：スポーツのインテグリティを考える（担当：田口直樹）</p> <p>定期試験は実施する。</p>			
<p>テキスト</p> <p>使用しない</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>友添秀則・岡出美則（2016）『教養としての体育原理～現代の体育・スポーツを考えるために』大修館書店</p>			

高橋徹編 (2018) 『はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学』 (株)みらい

学生に対する評価

定期試験 (70%)、授業内レポート (30%)

授業科目名： 体力トレーニング	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名：白坂牧人、黒澤尚、坪井俊樹、 渡邊泰典、神野未来
			担当形態：オムニバス
科 目	教科教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体力トレーニング		
授業のテーマ及び到達目標			
体力を向上させるためのトレーニングに関する基礎理論と体力の測定方法を理解し、説明できる。体力を向上させるためのトレーニング計画の作成と体力の測定・評価を、自分の専門種目について実施できる。			
授業の概要			
競技スポーツにおいて、体力は競技成績（パフォーマンス）を決定づける要因の一つである、本授業では、実務経験を活かして、効果的に体力を向上させるためのトレーニングに関する基礎理論および方法について、実技と講義を交えて解説する。また、体力の測定方法、評価方法についても解説する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス（担当：白坂牧人）			
第2回：形態計測とその評価（担当：白坂牧人）			
第3回：新体力テストの実施とその評価（担当：白坂牧人）			
第4回：筋力の測定と評価（担当：白坂牧人）			
第5回：筋力を向上させるためのトレーニング理論と方法（担当：白坂牧人）			
第6回：スピード、敏捷性の測定と評価（担当：黒澤尚）			
第7回：スピードを向上させるためのトレーニング理論と方法（担当：黒澤尚）			
第8回：パワーの測定と評価（担当：坪井俊樹）			
第9回：パワーを向上させるためのトレーニング理論と方法（担当：坪井俊樹）			
第10回：持久力の測定と評価（担当：渡邊泰典）			
第11回：持久力を向上させるためのトレーニング理論と方法（担当：渡邊泰典）			
第12回：柔軟性の測定と評価（担当：神野未来）			
第13回：柔軟性向上のためのトレーニング理論と方法（担当：神野未来）			
第14回：調整力の測定と評価（担当：神野未来）			
第15回：調整力向上のためのトレーニング理論と方法（担当：神野未来）			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
オリジナルテキスト（授業時に配付）			
参考書・参考資料等			
使用しない。			
学生に対する評価			
授業外レポートと演習・実技で評価する。授業外レポート（50%）、演習・実技（50%）			

授業科目名： 総合英語A(含外国語コ ミュニケーション)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1単位	担当教員名：鎌田幸雄、土生英則 担当形態：オムニバス
科 目	教科教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・総合英語A(含外国語コミュニケーション)		
授業のテーマ及び到達目標 英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力を向上させる。英語でのコミュニケーションの基本的能力を向上させる。英検4級レベルの基礎的英文法を修得する。			
授業の概要 英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力を向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレイスメント・テストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラスを編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行う。毎回確認テストを行い、期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：英文法第1回 文の種類 第3回：英文法第2回 動詞I（Be動詞） 第4回：英文法第3回 動詞II（一般動詞） 第5回：英文法第4回 7つの疑問詞 第6回：英文法第5回 進行形 第7回：英会話第1回 第8回：英会話第2回 第9回：英文法第6回 現在完了形 第10回：英文法第7回 冠詞 第11回：英文法第8回 受動態 第12回：英文法第9回 Itの特別用法 第13回：英文法第10回 there is (are)・・・構文の使い方 第14回：英文法第11回 命令形 第15回：英文法第12回 感嘆文 定期試験は実施しない。			
テキスト 使用しない			
参考書・参考資料等 使用しない			
学生に対する評価 授業内レポート（80%）、授業外レポート（20%）			

授業科目名： 総合英語B(含外国語コ ミュニケーション)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1単位	担当教員名：鎌田幸雄、土生英則 担当形態：オムニバス
科 目	教科教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・総合英語B(含外国語コミュニケーション)		
授業のテーマ及び到達目標 英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力を向上させる。英語でのコミュニケーションの基本的能力を向上させる。英検3級レベルの基礎的英文法を修得する。			
授業の概要 英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力を向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレイスメント・テストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラスを編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行う。毎回確認テストを行い、期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：英文法第1回 前置詞 第3回：英文法第2回 助動詞 第4回：英文法第3回 助動詞 第5回：英文法第4回 不定詞 第6回：英文法第5回 動名詞 第7回：英文法第6回 接続詞I 第8回：英文法第7回 接続詞II 第9回：英文法第8回 関係代名詞 第10回：英文法第9回 比較I 第11回：英会話第1回 第12回：英会話第2回 第13回：英文法第10回 比較II 第14回：英文法第11回 基本語順 第15回：英文法第12回 時制・否定・疑問 定期試験は実施しない。			
テキスト 使用しない			
参考書・参考資料等 使用しない			
学生に対する評価 授業内レポート（80%）、授業外レポート（20%）			

授業科目名： 総合英語C(含外国語コ ミュニケーション)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1単位	担当教員名：鎌田幸雄 担当形態：単独
科 目	教科教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・総合英語C(含外国語コミュニケーション)		
授業のテーマ及び到達目標 英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力を向上させる。英語でのコミュニケーションの基本的能力を向上させる。英検4級レベルの基礎的英文法を修得する。			
授業の概要 英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力を向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレイスメント・テストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラスを編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行う。毎回確認テストを行い、期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：英文法第1回 文の種類 第3回：英文法第2回 動詞I（Be動詞） 第4回：英文法第3回 動詞II（一般動詞） 第5回：英文法第4回 7つの疑問詞 第6回：英文法第5回 進行形 第7回：英会話第1回 第8回：英会話第2回 第9回：英文法第6回 現在完了形 第10回：英文法第7回 冠詞 第11回：英文法第8回 受動態 第12回：英文法第9回 Itの特別用法 第13回：英文法第10回 there is (are)・・・構文の使い方 第14回：英文法第11回 命令形 第15回：英文法第12回 感嘆文 定期試験は実施しない。			
テキスト 使用しない			
参考書・参考資料等 使用しない			
学生に対する評価 授業内レポート（80%）、授業外レポート（20%）			

授業科目名： 総合英語D(含外国語コ ミュニケーション)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：1単位	担当教員名：鎌田幸雄 担当形態：単独
科 目	教科教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・総合英語D(含外国語コミュニケーション)		
授業のテーマ及び到達目標 英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力を向上させる。英語でのコミュニケーションの基本的能力を向上させる。英検4級レベルの基礎的英文法を修得する。			
授業の概要 英語の4技能（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の総合的能力を向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレイスメント・テストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラスを編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行う。毎回確認テストを行い、期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：長文読解 第1回 第3回：長文読解 第2回 第4回：TOEIC 第1回 第5回：長文読解 第3回 第6回：長文読解 第4回 第7回：TOEIC 第2回 第8回：長文読解 第5回 Rugby Football 第9回：長文読解 第6回 第10回：TOEIC 第3回 第11回：長文読解 第7回 第12回：長文読解 第8回 第13回：英会話 第1回 第14回：英会話 第2回 第15回：TOEIC 第4回 定期試験は実施しない。			
テキスト 使用しない			
参考書・参考資料等 使用しない			
学生に対する評価 授業内レポート（80%）、授業外レポート（20%）			

授業科目名： 情報処理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名： 内野秀哲・橋本智明・山口恭正
			担当形態：同時開催
科目	教科教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・情報処理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>ICTに関する基本的な事柄が説明できる。処理目的と処理対象の状況に応じた機能が選択できる。適切な手段で情報の獲得、保存・加工ができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>コンピュータの基礎的利用方法に関する知識は、必須の素養として養成される場所であり、様々な課題や問題の解決手段としてITを活用することは、広い範囲で効果的となる。本講では、基礎知識の学習と基本操作の実習を通じて、意義と効用について解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：情報倫理について（担当：内野秀哲・山口恭正）</p> <p>第2回：情報処理の学習について（担当：内野秀哲・山口恭正）</p> <p>第3回：ICTスキルの把握（履修前）（担当：橋本智明・山口恭正）</p> <p>第4回：講義1：情報処理を考える（担当：内野秀哲・山口恭正）</p> <p>第5回：実習1：ワードプロセッサ1（担当：橋本智明・山口恭正）</p> <p>第6回：講義2：情報について（担当：内野秀哲）</p> <p>第7回：実習2：ワードプロセッサ2（担当：橋本智明・山口恭正）</p> <p>第8回：講義3：論理式と論理回路①（担当：内野秀哲）</p> <p>第9回：実習3：表計算アプリケーション1（担当：橋本智明・山口恭正）</p> <p>第10回：講義4：論理式と論理回路②（担当：橋本智明・山口恭正）</p> <p>第11回：実習4：表計算アプリケーション2（担当：橋本智明・山口恭正）</p> <p>第12回：講義5：学修/履修の振り返りとまとめ（担当：橋本智明）</p> <p>第13回：実習5：プレゼンテーションツール（担当：橋本智明・山口恭正）</p> <p>第14回：タイピングとコンピュータの仕組み（担当：橋本智明・山口恭正）</p> <p>第15回：ICTスキルの把握（履修後）（担当：内野秀哲）</p> <p>定期試験は実施する</p>			
<p>テキスト</p> <p>指定なし（授業内で提示）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>指定なし（授業内で提示）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験（100%）</p>			

授業科目名 教育の基礎理論 A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：頼 羿廷、三谷高史 、松本文弘、白幡真紀 担当形態： 複数・オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区 分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標 本講義では、(1)教育の基本概念と教育を成り立たせる諸要因、(2)教育の歴史的展開(教育および学校の変遷)、(3)教育や学校に関する様々な思想、について理解する。			
授業の概要 教育とは人間にとってどのような営みなのか。本講義では、その基本概念、思想、歴史的展開等について、(1)教育という言葉、(2)教育の必要性、(3)能力・特性の形成と教育、(4)教育の歴史的展開、(5)教育観(思想)の諸類型、の五つのテーマを立てて考えたい。			
授業計画(テーマ) 第1回：教育とは何か、学びとは何か(松本) 第2回：人間形成の多様性と無意図的教育(三谷) 第3回：子供の発達と意図的教育、家庭・学校・社会の役割(三谷) 第4回：近代日本と欧米における学校制度(白幡) 第5回：教師とは何か、教員に求められる力(白幡、頼) 第6回：教育評価の意義と方法(白幡、頼) 第7回：学力、教育実践と評価(白幡、頼) 第8回：教育とは何かを考える(グループディスカッション：不登校)(白幡) 第9回：学校改革と教育の国際化の動向(白幡) 第10回：西洋教育思想の源流とその展開(三谷) 第11回：近代公教育の形成と理念教育の思想(三谷) 第12回：新教育の思想と実践(三谷) 第13回：大工型モデルの教育観(思想)(三谷) 第14回：農民型モデルの教育観(思想)(三谷) 第15回：経験主義モデルの教育観(思想)(三谷) 期末試験			
テキスト 本講義では、各回の授業時に配布する講義資料にもとづき授業を実施する。			
参考書・参考資料等 各回の授業において関連する文献等を紹介する。			
学生に対する評価 期末試験の成績(95%)に、日常的な授業への取り組み姿勢等(5%)を加味して評価する。			

授業科目名： 教職論 A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：井上雅勝、江尻雅彦、 頼 羿廷 担当形態： 複数・オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区 分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営の対応を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 教職の意義、教員の役割、教員としての責任を自覚し、教職に対する自らの意欲や適性を考慮し、 教職への意欲や一体感を養う。同時に教職の希望実現に向けた学習計画の立案が出来る。			
授業の概要 次の4つの視点から学ぶ。①教職とはどんなものか、教職に就くための学習など教職に関する基 盤になることを理解する。②教員養成、教員免許制度、教員採用、研修制度などについて理解を 深める。③教職の服務規律、教育基本法を中心に知識を習得する。④教員としての資質・力量、 理想の教師像など実際に教員になった場合に必要な人間の在り方について学習し、自分の教員に 関する考え方を豊かにする。			
授業計画 第1回：教員の身分と関係法規〈江尻、頼〉 第2回：学習指導要領と教員 〈江尻、頼〉 第3回：特別支援教育 〈江尻、頼〉 第4回：教職と憲法・教育基本法〈江尻、頼〉 第5回：教職と学校教育法 〈江尻、頼〉 第6回：教職と学校教育法施行規則、学校保健安全法等〈江尻、頼〉 第7回：これからの教員に求められる資質・能力〈井上、頼〉 第8回：教員養成と教員免許制度〈井上、頼〉 第9回：教員の採用と研修 〈井上、頼〉 第10回：教科指導と教員 〈井上、頼〉 第11回：教科外指導と教員 〈井上、頼〉 第12回：学級経営、校務分掌と教員〈井上、頼〉 第13回：教員の服務規程 〈井上、頼〉 第14回：教員の身分保障と分限・懲戒規定〈井上、頼〉 第15回：チーム学校運営への対応・学校における防災教育〈井上、頼〉 期末試験			
テキスト 若井弥一編 必携教職小六法 共同出版			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領(最新版)、高等学校学習指導要領(最新版)			
学生に対する評価 期末試験の成績(95%)に、日常的な授業への取り組む姿勢等(5%)を加味して評価する。			

授業科目名： 教育の制度 A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 金井里弥、白幡真紀 担当形態： オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>① 現代の公教育制度の意義、原理、構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎知識を身に付け、それらに関連する課題を理解する。</p> <p>② 学校・地域間連携及び学校安全への対応に関する基礎的知識を身に付ける。</p>			
授業の概要			
現代の公教育制度の意義、原理、構造について、法的および制度的仕組みとその課題ならびに歴史的展開を学ぶ。また、チーム学校の構想を含む学校・地域間連携の在り方、学校安全への対応についての理解を深める。			
授業計画			
第1回：公教育の歴史と展開（金井）			
第2回：公教育の原理と理念（金井）			
第3回：公教育制度を構成する法規①～憲法と教育基本法～（白幡）			
第4回：公教育制度を構成する法規②～学校教育法～（白幡）			
第5回：近年の学校をめぐる状況の変化（金井）			
第6回：学校・地域間連携による学校教育活動の意義及び方法（金井）			
第7回：地域との連携を基盤とする開かれた学校づくりの展開（金井）			
第8回：中央教育行政の理念・仕組み・働き（白幡）			
第9回：地方教育行政の理念・仕組み・働き（金井）			
第10回：子どもの変化を踏まえた指導上の課題（金井）			
第11回：学校安全の必要性とその対応（白幡）			
第12回：安全管理および安全教育による新たな安全上の課題への取組み（白幡）			
第13回：教育改革の国際的動向（白幡）			
第14回：我が国の教育政策の動向（白幡）			
第15回：教育制度をめぐる諸課題（金井）			
期末試験			
テキスト			
若井彌一監修『必携教職六法（2018年度版）』協同出版、2017			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価			
期末試験（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）			

授業科目名； 教育の心理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 荒井 龍弥 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区 分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標 「学習過程・心身発達の基礎と学習援助」をテーマとし、幼児・児童・生徒の発達理論ならびに学習過程に関する理論を踏まえ、学習活動指導・評価の基礎となる要因群を理解することを到達目標とする。			
授業の概要 教育心理学の学問領域を学習、発達、評価、人格の4領域に大きく分け、各領域の理論・知見を紹介しながら、自らの考え方を築くための時間を設ける。			
授業計画 第1回：オリエンテーション・教育心理学の意義と基礎的考え方について 第2回：学習（1） 学習の定義と古典的学習理論 第3回：学習（2） 古典的学習理論に基づく教授法（プログラム学習と発見学習） 第4回：学習（3） その後の学習理論と教授法（有意義受容学習とルール学習） 第5回：学習（4） 学習観の問題と教授法（「ごまかし勉強」の問題とアクティブ・ラーニング） 第6回：評価（1） 教育評価の目的と意義 第7回：評価（2） 評定方法のいろいろと目標分析 第8回：発達（1） 発達の要因をめぐる考え方（遺伝説・環境説・相互作用説） 第9回：発達（2） 様々な発達段階説 第10回：発達（3） ヴィゴツキーの理論（教育と発達の関係・発達の最近接領域説） 第11回：発達（4） さまざまな障害とその発達を支える指導のありかた 第12回：人格（1） 知能と知能検査 第13回：人格（2） 人格の諸理論と人格・性格検査（特性論・類型論と動機づけ） 第14回：人格（3） 人格発達と指導（状況主義の考えかたと集団指導） 第15回：まとめ 教育現場における教育心理学の発展（要因の分析とその操作） 期末試験			
テキスト 特になし（自作資料を中心に用いる）			
参考書・参考資料等 本郷・八木編 シードブック教育心理学 建帛社、宇野編 授業に学び授業を作る教育心理学 第二版 中央法規のほか、授業中に適宜指示する。			
学生に対する評価 相互の評価のために、小テスト・授業内レポートを毎回課す。これらの結果(50%)と期末試験の結果(50%)を材料として成績評定を行う。なお、得点状況によってはテスト後にレポートを追加して課す場合がある。			

授業科目名： 特別支援教育論(児童生徒)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：氏家靖浩、大村一史
			担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標 この講義では、(1) 特別の支援を必要とする児童生徒の障害の特性と心身の発達(2) 障害のある児童生徒に対する教育課程や支援の方法(3) 特別の教育的ニーズのある児童生徒の学習上又は生活上の困難とその対応 等について理解する。			
授業の概要 本講義では、法令等に基づいて設置される特別支援学校、特別支援学級、通級による指導教室及び通常の学校における特別な支援を必要とする児童生徒の障害特性やその教育課程、支援の方法等を具体的に解説する。			
授業計画 第1回：特別な支援を必要とする児童生徒とは？(氏家) 第2回：障害の考え方について(ICFの考え方)(氏家) 第3回：学校に在籍する特別な教育的ニーズのある児童生徒とその対応(氏家) 第4回：特別支援教育の理念と仕組み(氏家) 第5回：インクルーシブ教育システムと特別支援教育(氏家) 第6回：特別支援教育における教育課程(氏家) 第7回：自立活動について(氏家) 第8回：連続した学びの場1 特別支援学校と特別支援学級(氏家) 第9回：連続した学びの場2 通常の学級と通級指導教室(氏家) 第10回：特別支援学校に通う児童生徒の特性(大村) 第11回：通常学級に在籍する発達障害児(学習障害)(大村) 第12回：通常学級に在籍する発達障害児(注意欠陥多動性障害)(大村) 第13回：通常学級に在籍する発達障害児(自閉症 ^h 、トラウマ障害)(大村) 第14回：個別の指導計画と個別の教育支援計画(氏家) 第15回：特別支援教育コーディネーターの役割(氏家) 期末試験			
テキスト 中学校学習指導要領(最新版)、高等学校学習指導要領(最新版)			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説総則編(最新版)、高等学校学習指導要領総則編(最新版)			
学生に対する評価 期末試験の成績(95%)に、日常的な授業への取組み等(5%)を加えて評価する。			

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 単位	担当教員名：山内明樹、松本文弘、 大迫章史 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、(1)学校教育において教育課程が有する意義、役割及び機能、(2)教育課程編成の基本原則及び教育課程編成の方法、(3)カリキュラム・マネジメントと教育課程の評価、について理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成方法について概説する。とくに各学校での教育課程編成の基準となる「学習指導要領」に関しては意義、変遷とともに、平成29年に公示された現行学習指導要領の考え方を詳述する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育課程とは何か：教育課程を学ぶことの意義（松本） 第2回：教育課程の意義と役割・機能（松本） 第3回：学習指導要領(1)：学習指導要領の性格と変遷（松本） 第4回：学習指導要領(2)：平成29-30年公示の学習指導要領の特質と内容（その1）（山内） 第5回：学習指導要領(3)：平成29-30年公示の学習指導要領の特質と内容（その2）（山内） 第6回：教育の目的と目標：教育基本法第1条と第2条（大迫） 第7回：中学校における教育課程(1)：中学校の目的と教育目標（大迫） 第8回：中学校における教育課程(2)：中学校における教育内容と授業時数等（大迫） 第9回：高校における教育課程(1)：高校の目的と教育目標（大迫） 第10回：高校における教育課程(2)：高校における教育内容と単位（大迫） 第11回：教育課程編成の実際(1)：教育課程編成の主体と基本原理（大迫） 第12回：教育課程編成の実際(2)：教科・科目を横断した教育内容の選択・配列（大迫） 第13回：カリキュラム・マネジメントと教育課程の実施・評価(1)：カリキュラム・マネジメントの意義（大迫） 第14回：カリキュラム・マネジメントと教育課程の実施・評価(2)：長期的視点からの指導計画の策定（大迫） 第15回：カリキュラム・マネジメントと教育課程の実施・評価(3)：教育課程の点検と評価（大迫）</p> <p>期末試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>中学校学習指導要領（最新版）、高等学校学習指導要領（最新版）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>中学校学習指導要領解説総則編（最新版）、高校学習指導要領解説総則編（最新版）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>期末試験の成績(95%)に、日常的な授業への取り組み姿勢等(5%)を加味して評価する。</p>			

授業科目名： 「総合的な学習の時間」 論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山内明樹、坂本憲昭 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>総合的な学習の時間は、探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく問題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成をめざす。本科目では、総合的な学習の時間において、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身につけることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目では、「総合的な学習の時間」について、(1) 意義と各学校で目標・内容の設定する際の留意点、(2) 指導計画作成の考え方と具体的事例、(3) 指導・評価の考え方と留意点について講義するとともに、講義にもとづいて受講者が主体的に、かつ協働して指導計画(年間指導計画と単元指導計画)と学習指導案の作成を実際に行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「総合的な学習の時間」論を学ぶ意義 (山内) 第2回：教育課程における「総合的な学習の時間」の意義と役割 (山内) 第3回：「総合的な学習の時間」の目標 (山内)) 第4回：各学校において「総合的な学習の時間」の目標・内容を定める際の基本的考え方 (山内) 第5回：「総合的な学習の時間」の指導計画－基本的考え方－ (坂本)) 第6回：「総合的な学習の時間」の年間指導計画1－各教科等との関連性を図った事例1－ (坂本) 第7回：「総合的な学習の時間」の年間指導計画2－各教科等との関連性を図った事例2－ (坂本) 第8回：「総合的な学習の時間」の単元計画1－主体的・対話的で深い学びを実現する単元事例1－ (坂本) 第9回：「総合的な学習の時間」の単元計画2－主体的・対話的で深い学びを実現する単元事例2－ (坂本) 第10回：「総合的な学習の時間」の年間指導計画3－指導計画作成演習－ (山内・坂本) 第11回：「総合的な学習の時間」における学習指導－基本的考え方－ (坂本)) 第12回：探究的な学習の過程を実現するための学習指導1－具体的な指導事例1－ (坂本) 第13回：探究的な学習の過程を実現するための学習指導2－具体的な指導事例2－ (坂本) 第14回：探究的な学習の過程を実現するための学習指導3－学習指導案作成演習－ (山内・坂本) 第15回：「総合的な学習の時間」における評価と留意点 (山内) 期末試験 (山内・坂本)</p>			
<p>テキスト</p> <p>中学校学習指導要領 (最新版)、同解説総合的な学習の時間編 (最新版)、高等学校学習指導要領 (最新版)、同解説総合的な学習の時間編 (最新版)</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>各回の授業において参考文献・資料を紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>期末試験の結果(70%)に、授業時に作成した指導計画と学習指導案の内容(30%)を加味して評価する。</p>			

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小石俊聡、中里和裕 、佐藤俊隆 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>特別活動の意義・目標を理解し、「チームとしての学校」などの適切な視点で、学年ごとの活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域や他校等と連携した組織的対応等を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>第1～10回は、平成29年度告示の学習指導要領およびその解説を中心に、特別活動の歴史、意義、目標、方法等に関する理解を深める。第11回以降は、それまでに学んだ知識を用いて、グループワークを中心に特別活動をデザインする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学校教育における特別活動（小石） 第2回：学習指導要領における特別活動の意義と目標（小石） 第3回：教育課程における特別活動の位置づけと各教科等との関連（小石） 第4回：学級活動・ホームルーム活動の特質（佐藤） 第5回：児童会・生徒会活動の特質（佐藤） 第6回：クラブ活動の特質（佐藤） 第7回：学校行事の特質（佐藤） 第8回：教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方（佐藤） 第9回：特別活動における取組の評価・改善活動の重要性（中里） 第10回：話し合い活動、集団活動の意義と指導の在り方（中里） 第11回：学級づくりに向けた話し合い活動のデザインと指導（中里） 第12回：学校行事に向けた話し合い活動と集団活動のデザインと指導（中里） 第13回：生徒会活動に向けた話し合い活動のデザインと指導（中里） 第14回：家庭・地域住民や関係諸機関との連携の在り方（小石） 第15回：家庭・地域住民、関係諸機関との連携のデザイン（小石）</p> <p>期末試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>中学校学習指導要領（最新版）、同解説特別活動編（最新版）、高等学校学習指導要領（最新版）、同解説特別活動編（最新版）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜資料を配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>期末試験（60%）、授業内で作成・提出する課題（40%）</p>			

授業科目名： 教育方法論A (ICT活用含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：荒井 龍弥 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 ・ これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法や指導技術を身に付ける。 ・ 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務推進の在り方、情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法に関する基礎的知識・技能を身に付ける。			
授業の概要 教師が教育場を創造するために必要な知識・技能という観点から、学習が効果的に成立するための諸条件の操作を中心にこれまでの知見を紹介する。また、教育において情報通信技術を活用する意義や効果的方法、ならびに情報活用能力育成のための指導法を紹介、検討する。これらを通じ、指導スタイルの確立や教育場面改善方法の獲得を目指すとともに、具体的な授業実践から学ぶべき情報内容と教育研究上での位置づけにつき検討を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション・授業の「道具立て」 第2回：教育の技術(1) 指導言(説明・指示) 第3回：教育の技術(2) 指導言(発問)・板書 第4回：授業の計画と検討(1) 学習指導案の計画と実践記録の検討 第5回：授業の計画と検討(2) 教育評価の考え方と教授ストラテジーの効用 第6回：教育の方法(1) 教育方法と社会的形態 第7回：教育の方法(2) 古典的教育方法の有効性と課題(教育評価理論を含む) 第8回：情報通信技術の活用(1) メディアとは～学校の情報環境の変化 第9回：情報通信技術の活用(2) 指導場面での提示内容と情報量～属性記述と対象記述 第10回：情報通信技術の活用(3) 動画教材のメリットと作成上の留意点 第11回：情報通信技術の活用(4) 情報モラル1～著作権 第12回：情報通信技術の活用(5) 情報モラル2～個人情報保護・SNS等の利用 第13回：情報通信技術の活用(6) まとめ演習 1教育の情報化の議論をめぐって 第14回：情報通信技術の活用(7) まとめ演習 2学校におけるICTを利用した学習場面 第15回：情報通信技術の活用(8) 校務の推進と特別支援における活用・まとめ 定期試験 レポート課題			
テキスト 教科書は指定しない。			
参考書・参考資料等 授業中に指示するほか、教材として以下を用いる 教職員支援機構オンライン講座(校内研修シリーズ) 文部科学省 教育の情報化に関する手引			

学生に対する評価

相互の評価のため、授業内その他で毎回小レポートを課す。これらは授業内で解説・ディスカッションを行うことによりフィードバックする。この結果（50%）と最終試験結果(50%)を資料として成績評定を行う。

授業科目名： 生徒指導論A（含進路指導及びキャリア教育の理論及び方法）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：江尻雅彦、白幡真紀、 中里寛 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 		
授業のテーマ及び到達目標 本講義では、(1)生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義や原理、(2)全ての児童生徒を対象として学級・学年・学校における生徒指導・進路指導・キャリア教育の考え方、指導の在り方や進め方、(3)児童生徒が抱える主な生徒指導上の課題の態様と、養護教諭等の他の教職員、及び外部の関係機関や専門家等との校外の連携も含めた対応の在り方、(4)児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方、について理解する。			
授業の概要 本講義では、生徒指導提要並びに学習指導要領に基づき、各学校で行われる生徒指導・進路指導及びキャリア教育の意義や原理、児童生徒全体へのその指導やその在り方及び内外並びに関係機関との連携の在り方、そして個別の児童生徒の生徒指導上、進路指導上の課題に向き合う指導の考え方と在り方をカウンセリング等の方法を含め概説する。			
授業計画 第1回：生徒指導とは何か：歴史と理念、意義と原理並びに教育課程における位置づけと領域（中里） 第2回：生徒指導の目的等：目的と内容、集団指導・個別指導の方法原理と三機能（中里） 第3回：生徒指導体制と教育相談体制：基礎的考え方と違い、児童生徒理解の方法・技術（中里） 第4回：生徒指導の進め方1：教師の役割と校内組織、指導方針と年間計画及び組織的取組（中里） 第5回：生徒指導の進め方2：基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成と安全教育の推進（江尻） 第6回：進路指導・キャリア教育とは何か：歴史と理論、発展と理念、教育課程と位置づけ（白幡） 第7回：キャリア教育の理念と性格：進路指導の基本的性格と原理、キャリア教育の定義と視点（白幡） 第8回：進路指導(キャリア教育)の組織と運営、連携：組織体制と教師の役割、運営と連携の現状（白幡） 第9回：進路指導・キャリア教育の考え方と指導：キャリア教育の6活動領域と4能力領域（白幡） 第10回：進路指導の評価と相談活動：自己作品の活用と評価、キャリアカウンセリングの適用（白幡） 第11回：生徒指導と教育課程：教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動による生徒指導（中里） 第12回：生徒指導と法制度：校則、懲戒及び体罰、出席停止と退学・停学等に関する主な法令（江尻） 第13回：生徒指導上の課題と対応1：問題行動、暴力行為、児童虐待と対応の視点(集団討議含)（江尻） 第14回：生徒指導上の課題と対応2：いじめ、不登校等と対応の視点(集団討議含)（江尻） 第15回：生徒指導上の課題と対応3：自殺、インターネット、性等の課題と関係機関等との連携(江尻) 期末試験			
テキスト 生徒指導提要、中学校学習指導要領（最新版）、高等学校学習指導要領（最新版）			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説総則編(最新版)他、高等学校学習指導要領解説総則編(最新版)他			
学生に対する評価 期末試験の成績(70%)に、日常的な授業への取組等(30%)を加味して評価する。			

授業科目名 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：白幡真紀、氏家靖浩 担当形態：オムニバス
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 本講義では、(1)学校における教育相談の意義と基礎的理論、(2)教育相談を進める上で必要とされる基礎的な知識（カウンセリングに関する基礎的・基本的な知識・理解を含む）、(3)教育相談の具体的な進め方やそのポイント、学校としての組織的な体制と取組みや内外部との連携の必要性、について理解する。			
授業の概要 本講義では、生徒指導提要等に基づき、学校における教育相談の意義と課題と周辺心理学の基礎理論等を理解する。また、教育相談を行う上で必要な問題行動等の意味やシグナルの把握、カウンセリングマインドの必要性やカウンセリングの姿勢や技法を理解する。さらに、児童生徒の発達段階や具体的な課題に応じた保護者との教育相談の目標の立て方や進め方、相談計画や校内体制等の組織的な取組み、地域の様々な専門機関との連携の意義や必要性を理解する。			
授業計画 第1回：学校教育相談とは何か：学校教育相談を学ぶ意義について（白幡） 第2回：教育相談の歴史と理念（沿革と発展）：我が国及びアメリカにおける教育相談のあゆみ（白幡） 第3回：教育相談の意義と課題：学校教育相談の意義、目的、役割、機能、課題（白幡） 第4回：教育相談と生徒指導：教育課程と生徒指導との関係、教育相談の特質、方法、形態、領域等（白幡） 第5回：校内外における教育相談体制：教育相談体制と各教師の役割、外部機関との連携の在り方（白幡） 第6回：児童生徒理解（心理アセスメント含）：問題行動と児童生徒理解の意義、方法、技術（氏家） 第7回：教育相談を支える関係心理学1：青年期の心理と発達、心の構造、適応と不適応（氏家） 第8回：教育相談を支える関係心理学2：欲求と欲求不満、自我の防衛機制（氏家） 第9回：教育相談のすすめ方と技法：教育相談の基礎理論とカウンセリングマインド、心理療法（氏家） 第10回：保護者との教育相談：発達に応じた保護者への相談対応の在り方、その計画と運営（氏家） 第11回：問題行動と教育相談1：いじめ等の課題に対する教育相談のすすめ方（討議含）（白幡） 第12回：問題行動と教育相談2：不登校等の課題に対する教育相談のすすめ方（討議含）（白幡） 第13回：問題行動と教育相談3：虐待等の課題に対する教育相談のすすめ方（討議含）（白幡） 第14回：問題行動と教育相談4：非行等の課題に対する教育相談のすすめ方（討議含）（白幡） 第15回：問題行動と教育相談5：発達障害等の課題に対する教育相談のすすめ方（討議含）（白幡） 期末試験			
テキスト 生徒指導提要、中学校学習指導要領(最新版)、高等学校学習指導要領(最新版)			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説総則編(最新版)、同特別活動編(最新版)、高等学校学習指導要領解説総則編(最新版)、同特別活動編(最新版)			
学生に対する評価 期末試験の成績(80%)に、日常的な授業への取組等(20%)を加味して評価する。			

シラバス：教職実践演習 (中・高)	単位数：2単位	担当教員名：井上雅勝、江尻雅彦、伊藤愛莉、金井里弥			
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 20～22人(10クラス編成で実施)					
教員の連携・協力体制 担当教員による各専門分野(教職)に関する最新の情報共有を図るよう協力・連携体制をとる。					
授業のテーマ及び到達目標 教職の実践的指導力についての理解と指導力形成に向けて、各学校の実践を意欲的に観察するとともに、基礎的・基本的技能を修得する。					
授業の概要 ①演習の人数を20名程度として実施する。②教育実習のレポート作成、その発表を行う。③各学校を訪問する場合の観察点や留意事項を作成する。④各学校を訪問しその実践活動をICT機器等を活用し観察する。⑤③で作成した目標等を比較し、自分の教育実習での経験を踏まえ、レポートの作成、その発表を行う。					
授業計画 第1回：オリエンテーション(担当者全員) 第2回：教育実践自己評価シートの作成(担当者全員) 第3回：訪問校の概要の説明及び各校ごとの留意事項等の確認(井上) 第4回：訪問校での見学事項等を検討するとともに訪問校についてまとめる(江尻) 第5回：ICT機器等を活用し普通高校1の教育実践活動を観察し内容等を集約(担当者全員) 第6回：ICT機器等を活用し普通高校2の教育実践活動を観察し内容等を集約(担当者全員) 第7回：ICT機器等を活用し普通高校3の教育実践活動を観察し内容等を集約(担当者全員) 第8回：ICT機器等を活用し専門高校1の教育実践活動を観察し内容等を集約(担当者全員) 第9回：ICT機器等を活用し専門高校2の教育実践活動を観察し内容等を集約(担当者全員) 第10回：学校参観の振り返りを行い、ICT機器等を活用し報告資料等の作成(担当者全員) 第11回：ICT機器等を活用し各個人ごとに報告及びグループ討議(担当者全員) 第12回：ICT機器等を活用し各個人ごとに報告及びグループ討議(担当者全員) 第13回：良き教員になるための課題の再確認：グループ討議(担当者全員) 第14回：良き教員になるための課題の再確認：グループ討議(担当者全員) 第15回：まとめ(担当者全員)					
テキスト 使用しない					
参考書・参考資料等 中学校・高等学校学習指導要領(保健体育編)。参考となる文献・資料は授業時に紹介する。					
学生に対する評価 課題への取り組み状況、各学校の実践を観察する姿勢など、総合的に評価する。					

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。